


 ざいそう

## 天と地の隔たり

河村 壮一



中国が有人宇宙船「神舟6号」の打ち上げに10月12日成功した。2年前の第1回に続きこれが2度目になる。5日間にわたる宇宙飛行では、二人の飛行士が宇宙服を脱いで船内を動き回り、育種などの科学実験に取り組む予定とのことである。中国の宇宙開発にかける意気込みと成長への強い意欲がひしひしと伝わってくる。

これに先立つ7月末から8月初めのこと、アメリカがコロンビア号の事故以来2年半ぶりに打ち上げたスペースシャトル「ディスカバリー」は、国際宇宙ステーションとのドッキングに成功し、ミッションを完遂して無事地球に帰還した。船外活動で耐熱タイルの修理など見事な成果を挙げた日本人宇宙飛行士・野口聡一さんらの活躍ぶりは、生中継で日本にも伝えられ、子供たちばかりでなく多くの人々に興奮と感動と未来への夢を与えた。

これら宇宙における夢と希望に溢れためざましい活躍の反面、地上における現実「悲惨」の限りである。10月8日にパキスタン北部で発生したマグニチュード7.6の地震で、カシミール地方を中心に首都イスラマバードも含め甚大な被害が生じた。石積みの平屋や2階建ての住宅が崩壊して瓦礫の山となったほか鉄筋コンクリート造の学校や中層住宅もパンケーキ状に崩れ落ちた。死者は4万人にも上ると伝えられている。日本からも緊急援助隊が派遣され被災者の救出活動に当たった。傷を負い家族と家を失って寒風に身を震わせ飢えている人々の姿はまことに痛ましい。

8月末にアメリカ南部を襲ったハリケーン「カトリーナ」は、ニューオーリンズ市の8割を水没させ、1,000人を超す死者と50万人にも及ぶ避難民を生んだ。石油精製施設の被災により原油価格が高騰したり、防災施策や救援措置の遅れに対する住民の不満が政府に対する不信感を生むことにもなった。引き続き襲来したハリケーン「リタ」の分も合わせると、被害総額

は1,300億米ドルにも上るといふ。世界一の先進国アメリカにおいてすら、このような自然災害に対し脆弱であったことは、ある種の驚きでもあり、アメリカ社会の襲と脆さを感じさせるものでもあった。

科学技術の進歩は、夢を現実のものとし人類の生活を豊かにするうえで必要不可欠である。しかし、それは地に足をしっかりと踏まえ、堅実でバランスのとれたものでなければ危険である。わが国における昨今の先端技術分野の目覚ましい進展は、人々の生活の豊かさや利便性を増し、国際競争力を強化するという面で大いに評価されてよい。ただし、それと同時に国民の生活の基盤である住宅・都市インフラストラクチャを整備し、安全で安心して住まうことのできる快適で魅力ある生活環境を構築することも、同時に行われなければならない。頭でっかちで足腰の弱い社会では世界に伍していくことも世界から信頼されることもない。

生活インフラストラクチャの整備が必要であることは万国共通であり、特に発展途上国においてはその必要が大である。現在、東南アジア、インド、アラビア、アフリカ、トルコ、東ヨーロッパなどにおいて交通、エネルギー、公共施設など社会インフラストラクチャの建設が活発化している。ダム、橋梁、トンネル、高層建築、環境浄化関連など日本の誇る建設技術が、これら海外での住環境整備に役立っていることは、わが国建設産業の国際的発展という観点のみならず、世界の人々の幸せにつながるという点からも、喜ばしいことである。

昨今の「天と地の隔たり」を感じさせる一連の出来事は、光と影の織り成す世界の現状をまざまざと見せつけた。「まずは地上にこそ楽園を！」と思うのは私だけだろうか？

—かわむら そういち 大成建設株式会社常務役員、  
技術センター長兼原子力本部長—